

行くだけじゃ面白くない!

大人の 「ひねり旅」 指南



第4回

「また行く」とは異なる ひと味違うこれからの 大人リピート旅

DiTHi (ディシー) 代表
観光ホスピタリティコンサルタント

石田 宜久

URL <http://www.dithi.net>

E-mail info.contact@dithi.net

これまで、仕事や休暇を利用した様々な旅行をしてきたと思いますが、その中でも特に印象深く、「もう一度行ってみたい」と思う地がありませんか?あるいは、その旅先で起こった出来事や食事、アトラクションで心に残っているものはありますか?

人は発見を求める生き物でありながら、記憶に残る思い出に心を奪われたりもします。筆者の専門外ではありますが、こんなデータを発見しました。団塊の世代200名の調査で、なんと65%の人の

心に残る思い出が、「旅での出来事」だそうです。

やはり非日常の生活だからこそ思い出は作られるのです。今回はそんな思い出を振り返ると共に再発見もできる、リピート旅の面白さを紹介しましょう。

なぜ、リピート旅なのか

リピーターという言葉は、業種を問わずビジネスではとても大切な存在として近年重要視されています。レストランや居酒屋でも、

図1 リピート旅の6つのタイプ

①ファンタイプ

特に強い思い入れがあり、ファンになり、特別な使命感による願望を叶えるために訪れる

②帰省タイプ

生活拠点・地元であるなど、帰省が理由

③心残りタイプ

前回の旅に満足しておらず、何らかの心残りが生じており、解消するために訪れる

④チェンジタイプ

リニューアルや再開発などの噂を耳にし、その変化を見に行こうという心情がきっかけ

⑤Re:アトラクションタイプ

その地域で行った体験や経験を改めて味わいたいという理由。気に入ったホテルや旅館滞在目的も含まれる

⑥達成感タイプ

その地で得た達成感をもう一度味わうために訪れる。登山や釣りといった趣味関連が多い

リピーターにつなげるための試行錯誤が行われ、ユニークな方法はメディアに取り上げられるほどです。旅においてのリピートというのは、少々偏見を持たれるのが一般的なで、

・せっかくの機会に、何で同じところに行くのか

・一度行ったら新鮮味がない
・見るところは決まっている
などの厳しい意見があります。

しかし、これらはあくまでも勘違い。リピート旅は、決して「同じ地に再度行く」ということではありません。少々専門的な話になってしまのですが、観光学では、リピート旅は6つのタイプに分けられるとしています(図1)。

リピート旅は、これら6つのどれかに当てはまることになりました。ただ繰り返し行くだけではなく、ちゃんとそこには理由があるということです。



今の目線でリピート旅

●修学旅行を巡る旅

「大人の修学旅行」と銘打った旅行プランが数々出回っています。が、今回、紹介したいのは「実際に修学旅行で巡った地をもう一度訪れる」です。修学旅行先を再訪問してみる旅の楽しみ方のキーワードは、

- ・変化
- ・思い出
- ・新発見
- ・再チャレンジ

修学旅行は学校行事であり団体行動が義務づけられ、自分の意思よりも教育、つまり「学びを修める」という概念が根本にあります。また、学生時代のことです。訪れた場所の中には個人によっては不本意な場所もあったことでしょう。筆者は歴史が苦手だったので、歴史資料館がどうにも好きになれず、見学で訪れた際には嫌々だったのを覚えています。

しかし、時が経った今、考え方

や趣味も変わり、学生時代には面白くなかったものが興味深い存在になっているケースもあるはずです。今もって筆者は、歴史に精通しておりませんが、各地域を知ることのできる歴史資料館や博物館が大好きになり、旅先で必ず訪れるようにしています。

食事でも同じことが言えます。

再・修学旅行企画紹介 「うどん県時間旅行物語」

昭和30～40年代、主な修学旅行先の一つとして「香川県」の名前が挙がっていました。日本一の長さを誇る高松市のアーケード街には、お土産を求める制服姿が溢れ、大型バスが絶えず通りを走っていたそうです。「うどん県時間旅行物語」は、当時多くの修学旅行生で賑わっていた、栗林公園、玉藻公園、金刀比羅宮、屋島などにそれぞれ時代を設定し、コンセプトである

「懐かしの修学旅行」を味わってもらおうというキャンペーンです。

残念ながら、キャンペーンは2013年12月に幕が下ろされてしまい、期間中に行われていた職員が和装で接客する姿や、キャラバン隊による歌と踊りのパフォーマンスは見る事ができません。懐かしい修学旅行の思い出を、今の目線で、今の大切な仲間やパートナーと楽しむ、新しい思い出作りのプランモデルとして他地域での復活を望みます。



地元を走る琴電ではレトロ電車を運行している

修学旅行生の場合、学校が用意した食事が並び、メニューに目を通すことはありませんでした。今は違います。自分でお店を選び、自分が味わってみたいものを選択することが出来ます。当時と同じ体験を改めて行ってみると、違う感覚を味わえるかもしれません。

一度訪れた地であっても再訪問

思い出の地を巡る旅

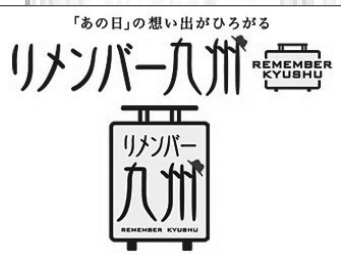
●旅の記憶はあいまい

冒頭にも書きましたが、これまで経験した旅で、強く思い出に残っていることがあるはずですが、その特別な旅をすべて覚えていますか？という質問に「YES」と答えられる方が、どの位いるでしょうか。

人間の記憶は結構いい加減なもので、実際に旅を振り返ってみると「あのお店の名前はなんだっけ？」「あそこ面白かったけれど、どうやって行ったのかな？」など、あやふやなことばかりです。

当時の旅の写真を見返して「あッ、こんなお店、あった、あった」という言葉を口にする人も多いの

懐かしい思い出を新しい思い出に… JR西日本「リメンバー九州」



「あの日」の思い出がひろがる

2014年4月～
2015年の3月ま
で、佐賀県・長崎
県・大分県・熊本
県・鹿児島県の九
州5県で、「リメン
バー九州」キャ

ンペーンを開催しています。

「懐かしく、新しい風景へ。いつかの場所
が、新しい思い出になっていく」をコンセプ
トに、「夫婦」「仲間同士」「家族」「親子」な
ど、大切な方との九州旅行が、新しい思い出
の地となるキャンペーン企画が多数用意され
ています。大人の好奇心を満たすアクティビ
ティが厳選されているのが特徴で、はじめて
九州地方を訪れる方にもお得な内容になって
います。宿泊した宿で「記念日新聞」を発行

してくれる、過去に訪れた際の写真を提示す
るとプレゼントがもらえるなど、様々な企画
が満載です。

このリメンバー九州を楽しむために、絶対
に取得しておきたいアイテムが「九州5県パ
スポート」です。特典盛り沢山の旅手帖だと
お考えください。九州スイーツお試し特典や
観光地を巡るスタンプラリーが用意されてい
ます。もちろん内容
も、市販のガイドブ
ックよりも大人の趣
味趣向を吟味して情
報を掲載していま
す。より一層深い旅
を手助けしてくれる
こと間違いなしの一
冊です。



ではないでしょうか。この様に、
旅とは意外と覚えていないものな
のです。これは当たり前なこと、
非日常生活とは言え、すべてを記
憶するのは困難です。

●五感で思い出す

このモヤモヤを解消するのがリ
ピート旅の醍醐味の一つです。思
い出を巡る旅でキーポイントにな
るのが「五感」です。前述の通り
人間の記憶はあいまいですが、実
は、五感が覚えていることがある
のです。例えば筆者は、リピート
した地のある飲食店で、このお
店にきたという記憶はあいまいだ
ったのですが、「あッ、この味
だ!」と、味覚をキッカケに来店
したことを思い出した経験があり
ます。その後も、「そうそうこの
味!」と堪能して、お店の方と話
が盛り上がりました。

また、記憶や五感を辿る「自分
専用の巡り旅」であることも魅力
の一つです。旅行会社が企画した
旅だと、どうしても同じ旅プラン
で同じ巡り方をしている旅行者が

います。思い出は個人で異なるも
のであり、この旅の仕方では同じ
巡り方をしている人はまず存在し
ません。

●個々の思い出の共有

結婚当初に旅をするのは「ハネ
ムーン」ですが、最近では何十年
か経ち、夫婦水いらずで懐かしい
場所を巡る「フルムーン」が流行
っています。元々は、JRの熟年
カップル向けお得きつぷ「フルム
ーンパス」が始まりで、2人合わ
せて88歳以上の年齢の夫婦であ
れば、JR全線のグリーン車が一部
を除き利用できます（要確認）。

このフルムーンですが、旦那様
と奥様の別々の思い出の地を巡る
プランで、お互いに知らなかった
思い出の共有ができるという旅も
徐々に浸透してきています。

また、年を重ねたことで味覚の
変化もあります。若い頃、食べら
れなかったものが、今はその美味
しさがわかる。逆に、若い頃はベ
ロツと食べられたはずの料理が食
べきれない。そんな様々なエピソード

「いつか行きたいな…」も一つの旅の方法？ 妄想旅のススメ



「妄想旅」。聞いたことありませんか？

何それ？と思われるかもしれませんが、少し、この妄想旅の魅力について紹介させてください。最近では、人気女性向けガイドブック『ことりっぷ（昭文社）』とのタイアップもされているので、これからの一つのスタイルになること間違いなしです。

その方法は簡単です。ガイドブックやパンフレットを買って、頭の中で想像してみてください。まだ行く予定はなくても構いません。良さそうなお店にマークを付けたり、他にどんなお店があるのかを想像し、行きたいと思ったところは直感でチェック。上級者になると、デパートや物産展で実際にお土産品など

を手に取って物色しておきます。

ただし、「欲しいものは現地で買う」は鉄則ですので、下見だけにとどめておきましょう。実際に、現地の方が種類も多く、値段も安いのでお得です。

そして実際に訪れるわけですが、初めての地でも知識は豊富。なんだか知っているような…、でも初めてという、不思議な感覚を味わうことができます。筆者も体験したことがあります、なんとも言葉では言い表せない感覚で、初めてなのに2回目、3回目の様な…。

一度ガイドブックで気になった場所は、その周辺を散策すれば何かあるワクワク感。そこでコミュニケーションも取ってみましょう。訪れたショップの店員さんに、他に素敵な場所がないかを尋ねて、協道に入り寄り道する。そして、忘れずにチェックしていたお土産や雑貨も探してみましょう。

ードを耳にします。

中には、訪れた場所で当時のことを覚えていてくれた方と出会えたり、意外な所で意外な再開につながったりと様々なエピソードがあります。思い出が「ただの」思い出でなくなる瞬間が訪れるかも知れません。

思ったことを
思う存分楽しむ旅

近年、急増しているテレビの旅番組。テレビを見て想像を膨らませても、その土地の風の感触も料理の味も香りもわかりません。

以前、仕事や出張で訪れた地でスケジュールの都合により立ち寄れなかった場所、ドラマや映画で見た風景など…。

そんな、「行ってみたみたい」「いいな」「してみたい」を実現させてみましょう。つまり、思ったことを実行に移せていない心残りの場所に行ってみるのが、この旅のコンセプトなのです。

旅情報番組で得た知識をフル活

用して、自分だけの旅プランを見つけて楽しむ。これまでは「思っていた」に留まっていたことを、実際に楽しむ贅沢な旅です。「思い」は、人それぞれですので独自性あふれる旅プランが作れること間違いなしです。

「そこに、一度も行ってもいいのにリピート旅？」。確かにドラマや映画のロケ地には行ったことがないかもしれません。しかし、一度あなたは頭の中でその地へ行き、想像しているのですから、それでいいのです。だから「ひと味が違うリピート旅」なのです。今では「妄想旅」も一つの旅の楽しみ方なので、妄想で一回訪れた地に、今度は実際に訪れリピート旅する。こんな旅も面白いのではありませんか。

・ ・ ・

今回は、大人になった今しかできない、改めて考えたり感じたりする旅。知識も経験も浅い若かりし頃には考えもしなかったことを旅を通じて知る。自分を知るにはピッタリな旅を紹介します。